

文部科学省「研究大学強化促進事業」大阪大学 ～適塾から175年、物事の本質を見極め世界に羽ばたく～

平成25年度配分予定額：300百万円

2031年に創立100周年、その時、大阪大学は世界トップ10の研究型総合大学になる。
 そのため、研究の更なる国際化と若手教員の育成を進め、女性・外国人教員を増やすなど学問の発展の源である多様性を高める。
 総長のリーダーシップのもと研究資金と教員ポスト(もの)の重点配分を行い、URA等の知恵とアイデア(こと)による研究者支援で、世界から人が集まる魅力的な研究環境を実現し、国内屈指の研究力をさらに伸ばす。

大阪大学の研究力 強い分野を「もの」の支援で更に強くし、弱い分野は「もの」と「こと」の支援で強化する。

強い分野

論文被引用総数データ **総合：世界48位(国内3位)**

免疫学：	世界7位 (国内1位)	化学：	世界16位 (国内大学3位)
材料科学：	世界20位 (国内大学2位)	物理学：	世界30位 (国内4位)
生物学・生化学：	世界32位 (国内大学3位)	複合分野：	世界35位 (国内2位)
分子生物学・遺伝学：	世界43位 (国内大学3位)	微生物学：	世界67位 (国内2位)
臨床医学：	世界102位(国内2位)		

(トムソン・ロイター社のデータ(2003年1月～2013年2月)による)

1論文当たりの被引用数の世界平均を1とした指標 **総合：1.34(RU11中2位)**

免疫学：	2.52 (RU11中1位)	植物学・動物学：	1.65 (RU11中3位)
複合分野：	1.51 (RU11中3位)	農業科学：	1.48 (RU11中1位)
分子生物学・遺伝学：	1.31 (RU11中2位)	化学：	1.24 (RU11中4位)
臨床医学：	1.20 (RU11中1位)	微生物学：	1.17 (RU11中1位)

(トムソン・ロイター社のデータ(2003年1月～2012年12月)による)

RU11：北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学の11大学

弱い分野

1論文当たりの被引用数の世界平均を1とした指標で、0.8未満の研究分野がいくつかある。それらは、研究内容の性格上、英語による国際発信が難しいものと、日本全体として弱い分野である。

注：研究分野の分類はトムソン・ロイター社の22分類による。

研究力強化実現 のためのメニュー

研究の更なる国際化と若手・女性・外国人研究者への支援を強化すると同時に、
強い分野・弱い分野それぞれに適切な支援を行う。

研究情報の国際発信

- 研究情報の国際発信の支援・効果の検証
- 若手・女性・文系研究者の英語での情報発信支援
- 英語での論文発表が困難な研究分野への英語での発表支援

研究の更なる国際化

- 外国人研究チーム受入れのための環境整備・受入れ後の運営支援
- 国際共同研究の企画・立ち上げ～成果発信の支援
- 研究拠点(国際ジョイントラボ)の強化
- 事務部門の国際対応能力強化

若手・女性・外国人研究者支援

- 若手・女性・外国人研究者による国際シンポジウム開催支援
- 若手・女性・外国人研究者の研究費獲得支援

強い分野・弱い分野への支援 等

- アカデミア・産業界・外国人等の多様な人材が集うワークショップ等の開催
- 国内外の競争的資金情報の収集・学内研究戦略分析
- 多様な研究人材の交流機会の創出・マッチング
- 部局を超えた研究グループ立ち上げ

大阪大学における研究力強化のためのマネジメント

国立大学改革強化推進事業

未来戦略機構が異分野融合研究を戦略的に推進し組織の枠を超えて柔軟に研究プログラムのトライ&エラーを行う

自主的取組

- “世界10指”に向けた部局マネジメント及び人材育成・獲得支援策
- 若手教員・女性教員の採用・昇任への大学留保ポストの活用

「もの」
ポストや研究費・手当等
が主な支援

マネジメント①

個々の部局ではできないので
大学執行部がすべきこと

マネジメント②

部局が力を発揮するために
大学執行部がすべきこと

マネジメント③

研究者や研究グループなど
研究現場が力を発揮するために
大学執行部がすべきこと

研究大学 強化促進事業

(本補助事業)

「こと」

知恵・アイデアや活動等
の支援強化



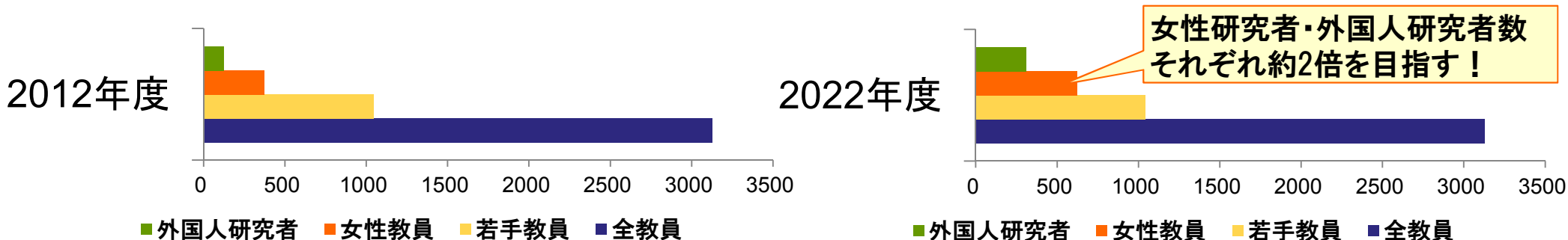
**URAが
力を発揮**

若手・女性・外国人研究者にとって魅力的な研究環境になるように、「もの」と「こと」で部局と研究者を支援する。

大阪大学の教員比率

2012年5月1日時点：全教員3,126名 内 若手教員(39歳以下)33.43%、女性研究者11.93%、外国人研究者3.97%

2022年度の目標：若手教員**1/3程度(現状と同程度)**、女性研究者**20%**、外国人研究者**10%**



大阪大学のURA体制



URA事業チームと連携して、知識と技能(スキル)を受け継ぎ、研究の更なる国際化と若手・女性・外国人教員への支援を強化する。

【2009年7月】 大型教育研究プロジェクト支援室を設置

【2012年6月】 「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)」事業(URA事業)の実施機関に選定

2013年6月時点の体制:

- ・ URA事業経費雇用URA8名(内2名がシニアURA)(2015年度以降、自主経費)、本部の自主経費雇用URA2名
- ・ 他に部局のURA16名、プロジェクト雇用URA(類似職を含む)多数



【研究大学強化促進事業(本補助事業)】

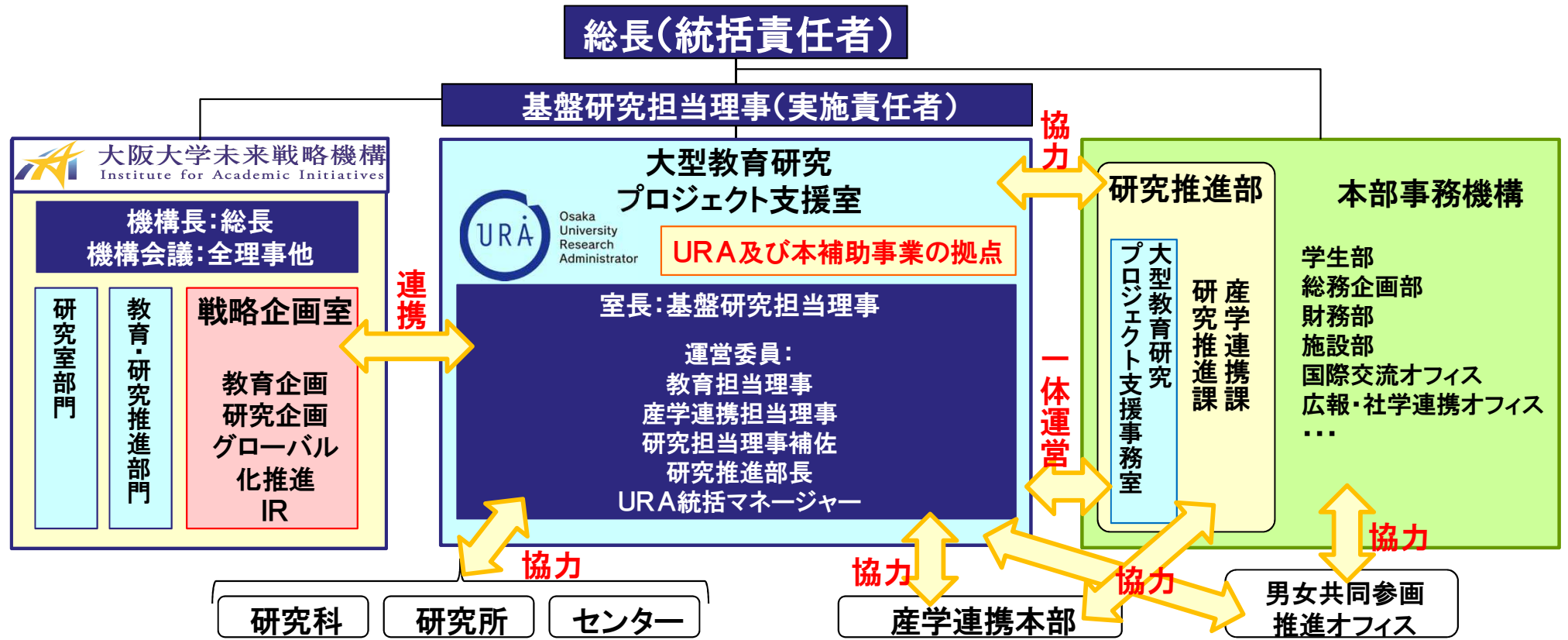
URAの業務に必要な環境(育成、キャリアパス、職種整備、人事労務関係条件等)や学内ネットワークはURA事業で整備したものを活用

URA雇用計画:

- ・ 2013年度～ URA5名

総長のリーダーシップのもと研究資金と教員ポスト(もの)の重点配分を行い
URA等の知恵とアイデア(こと)による研究者支援で 世界から人が集まる魅力的な
研究環境を実現し 国内屈指の研究力をさらに伸ばす

本事業の推進体制



史跡・重要文化財 適塾(左:庭、右:学生大部屋)



大阪市中之島にあった開学当時の医学部(「大阪大学五十年史 部局史」より)



現在の豊中キャンパス